

通常上映 アーカイブ・コレクションPart13

スタンス・カンパニーの軌跡

90年代以降、独自の価値観で映画製作&配給を展開するスタンス・カンパニーの特集。



菊とギロチン

通常上映

ドイツ映画特集

ドイツ・ニュージャーマン・シネマの監督達の特集



小人の饗宴



コブラ・ヴェルデ 緑の蛇



出稼ぎ野郎

通常
上映

スタンス・カンパニーの軌跡

90年代以降、独自の価値観で映画製作&配給を展開するスタンス・カンパニーの特集。

会期：1月22日(水)～1月26日(日)

観覧料：500円(大人) 400円(大学生・高校生) 300円(中学生・小学生)

22(水) 11:00

石巻市立湊小学校避難所

2011年3月の東日本大震災後、市民の避難所となった宮城県石巻市の小学校に単身で訪れた藤川監督が、避難所が閉鎖されるまでの約半年間を被災者と生活を共にしながら、その日常を記録したドキュメンタリー。当初カメラの前では気丈に笑顔を振りまきながらも次第に悲しさや悔しさを吐露する人々の姿や、避難所で知り合った見ず知らずの老人や子供たちが、互いに励ましあいながら生きる力を生み出していく姿を映し出していく。



監督：藤川佳三 プロデューサー：坂口一直 瀬々敬久
2012年/デジタル/カラー/124分/日本

23(木) 11:00

地下の民

ボリビアのウカマウ集団作品を日本に紹介した、「第一の敵」上映委員会(現シネマテーク・インディアス)共同製作・配給の本作にスタンス・カンパニーが協力し、山本政志監督「てなもんやコネクション」公開のために渋谷の空き地に建てられた仮設の映画小屋「TANK2」で祝祭的空間を演出しつつ上映された。アンデス先住民のアイデンティティの喪失と再生を、その神話的世界や宇宙観とともに大きなスケールで描いた衝撃作。1989年度サンセバスチャン映画祭グランプリ。



監督：ホルヘ・サンヒネス 音楽：セルヒオ・ブルデンシオ
1989年/35ミリ/カラー/125分
ボリビア=イギリス=スペイン=ドイツ=日本

24(金) 11:00

ターチ・トリップ

独自の実験的スタイルにより、海外の映画祭で高い評価を受ける大木裕之監督が、ドイツ人プロデューサーの出资により製作。92年夏の高知で撮影されたフィルムは、編集されることなく、撮った順番に繋げるという手法により、ある青年の生と死のイメージが曖昧に共存する。90年代という時代の気分の内なる物語は、「エイズ時代のブッディズム・フィルム」と評された。



*スタンス・カンパニー製作&配給作品予告編集(約20分)を先に上映いたします。

監督：大木裕之 プロデューサー：ユルゲン・ブリュネンク
1994年/16ミリ/カラー/64分/ドイツ=日本

22(水) 14:00

蜃気楼劇場

1991年、東京汐留の広大な空き地に巨大な野外劇場を建設してしまった大阪の劇団・維新派。そこで行われた公演「少年街」によって、彼ら独自のスタイル「ジャンジャン☆オペラ」を確立することになる。どこからともなく集まってくる建築スタッフの手により、何もない空き地に立ち上がっていく劇場。そこでの公演。そして、取り壊し立ち去るまでのドキュメント。「更地から更地へ」をモットーに、故松本雄吉が率いた異色劇団、維新派の貴重な記録。



監督：杉本信昭 出演：劇団維新派
1992年/16ミリ/カラー/111分/日本

23(木) 14:00

鳥の歌

『地下の民』に続き、シネマテーク・インディアスが製作に参加したボリビア映画。16世紀スペインによる「征服」という歴史を、批判的にとらえるために映画製作へと乗り出した集団。先住民の村に到着した彼らは、村人たちとの思いもよらぬ軋轢に戸惑うことになる。村人たちは彼らに「出ていけ!」と言うのだった。チャップリンの娘、ジェラルディン・チャップリンが出演していることでも話題となった本作は、1995年のロカルノ映画祭で「質と刷新」賞に輝いた。



監督：ホルヘ・サンヒネス
出演：ジェラルディン・チャップリン ホルヘ・オルティス
1995年/35ミリ/カラー/100分/ボリビア=ドイツ=日本

24(金) 14:00

JUNK FOOD/ジャンクフード

都市に生きる「非常識な人間たち」の生態を生々しく描き出した異色ドラマ。都市のある一日のありさまを、2つの独立した物語と、プロローグとエピローグに挿入された盲目の老女の物語で描いていく。昼はオフィスでまじめに働く美人OLが夜になると街に繰り出し…。そしてストリートにうごめくジャンキーで危ない人間たち…。90年代のリアルなストリートを活写し、ニューヨークを皮切りに全米10都市でも公開された鬼才・山本政志の傑作。



監督：山本政志 出演：飯島みゆき 古田新太
1998年/35ミリ/カラー/84分/日本

対談

26(日) 16:15~17:15

「バブル以後30年の映画製作&配給」

坂口一直(スタンス・カンパニー)×瀬々敬久(映画監督)

進行：松本圭二(福岡市総合図書館)



坂口 一直

1959年、長野県に生まれる。法政大学在学中に自主映画制作、自主上映に携わる。卒業後、フリーの映写技師などを経て、1986年、東京都湯島に「有限会社スタンス・カンパニー」を設立。映画祭等への映写技師の派遣、映写機材のレンタル、字幕制作などを始める。1990年頃より映画配給や製作も手掛けるようになる。



瀬々 敬久

1960年、大分県に生まれる。京都大学在学中より自主映画を制作。卒業後、獅子プロダクションに所属、数々の傑作ピンク映画を世に送り出す。以後、一般映画、Vシネマ、テレビドキュメンタリーなどジャンルを問わず縦横無尽に活躍。近年では、『64-ロクヨン 前編/後編』(2016年・東宝)、『楽園』(2019年・KADOKAWA)、『糸』(2020年4月公開予定・東宝)などメジャーシーンでの話題作を連発する一方、『菊とギロチン』のような自主企画も常に構想している。

※対談は有料で13時からの「菊とギロチン」とセット料金です。

25(土) 11:00

五月 夢の国

80年代後半、民主化運動で混沌とする韓国において、独立映画運動が活発となる。その渦中に若い映画人や学生によって製作された本作は、当時の韓国国内では、その情報がタブーとされていた1980年5月の「光州事件」を背景に、米軍駐留など韓国社会の矛盾と葛藤を描いた問題作。韓国当局から上映中止勧告や治安部への告発などの弾圧がなされるが、あるルートにより奇跡的に日本国内にフィルムが持ち込まれ公開した、画期的かつ伝説的作品。



監督：イ・ウン チャン・ドンホン チャン・ユニョン
製作：製作集団チャンサンコッメ
1988年/16ミリ/カラー/84分/韓国

※定員制。各回入替制。

※チケットはすべて当日券。前売り券はありません。
(チケットの販売は上映の1時間前からです。)

※障がい者の方は無料。福岡市在住の65歳以上の方は250円。(手帳や保険証などの提示が必要です。)

※「わの会」会員の方は250円。

(会員証の提示が必要です。)

通常
上映

ドイツ映画特集

ドイツ・ニュージャーマン・シネマの監督たちの特集

会期:1月8日(水)~1月19日(日) ※休館日・休映日除く

観覧料:500円(大人) 400円(大学生・高校生) 300円(中学生・小学生)

主催:東京ドイツ文化センター 福岡市総合図書館 映像ホール・シネラ実行委員会

※定員制。各回入替制。

※チケットはすべて当日券。前売り券はありません。(チケットの販売は上映の1時間前からです。)

※障がい者の方は無料。福岡市在住の65歳以上の方は250円。(手帳や保険証などの提示が必要です。)

※「わの会」会員の方は250円。(会員証の提示が必要です。)



25(土) 14:00

ヘヴンズ ストーリー

実際の事件をモチーフに、日常の中で突如殺人事件に直面した人々の複雑な絡み合いと葛藤を、全9章、上映時間4時間38分、20人を超える登場人物で描いた大巨編。いまだ世界を覆う「憎しみ」と「復讐の連鎖」への考察は、21世紀の『罪と罰』と称された。第61回ベルリン国際映画祭で国際批評家連盟賞とNETPAC賞(最優秀アジア映画賞)をW受賞。

*途中、5分間の休憩があります。



監督:瀬々敬久 出演:窪岡萌希 長谷川朝晴
2010年/35ミリ/カラー/278分/日本

26(日) 11:00

W/O

取り壊し騒動で揺れる東京大学駒場寮には、学籍を持たないアーティストや外国人などが無断で住みついていた。寮内でギャラリーを運営していた監督:長谷井宏紀もそのひとり。彼が写し取った仲間たちの日常や祖母の死などをコラージュし、デジタル・ノイズに満ちた荒れた映像と、激しくシャウトするクールな音楽が見事に調和する異色作。2000年ソウルネットフェスティバル・デジタルエクスプレス特別賞受賞。



監督:長谷井宏紀 音楽:藤乃家舞 KUJUN
2001年/デジタル/カラー/60分/日本

26(日) 13:00

菊とギロチン

関東大震災後の大正時代末期を舞台に、当時実在した女相撲の力士たちとアナキスト集団「ギロチン社」が、もし出会っていたらという架空の物語。構想30年、予告編などで出資と出演者を募り、製作&公開にまで漕ぎつけた監督渾身の自主企画。内向きで閉塞感漂う現代世界に向け、改めて「自由」と「自主」を問う、アナーキーな青春群像劇。2018年度、「キネマ旬報」日本映画第2位、同監督賞、脚本賞、新人女優賞、新人男優賞。毎日映画コンクール日本映画優秀賞などを受賞。



監督:瀬々敬久 出演:木竜麻生 東出昌大
2018年/デジタル/カラー/189分/日本

8(水) 14:00 / 11(土) 14:00
19(日) 11:00

都会のアリス Alice in der Stadt

ドイツ人ジャーナリストのフィリップは旅行記の執筆を依頼され、アメリカを旅する。しかし彼は旅行記が書けずドイツに帰ろうとして、ドイツ人女性リザと9歳の少女アリスと出会う。ところがリザが突然姿を消してしまい、やむなくフィリップとアリスの旅が始まる。監督は、「緋文字」の撮影で主役の二人が仲良くなったことで本作を思いついたと語る。巨匠ヴィム・ヴェンダース監督の初期の代表作の1本。アリスを演じるイェラ・ロットレンダーが大変魅力的。



監督:ヴィム・ヴェンダース
出演:リュディガー・フォークラー イェラ・ロットレンダー
1974年/16ミリ/モノクロ/112分/西ドイツ/日本語字幕付き

9(木) 11:00 / 12(日) 14:00
17(金) 11:00

小人の饗宴 Auch Zwerge Haben Klein Angefangen

荒野にポツンと立つ施設。校長などが外出した時、管理者に対して不満を持つ13人の小人たちが日ごろの不満を爆発させる。校長室を包囲し、電話線を切断、彼らの行動は次第に傍若無人なお祭り騒ぎになっていく。ニュー・ジャーマン・シネマ初期のカルト的な作品。物語らしい物語はこの映画には存在しない。小人しか存在しない世界の中での乱痴気騒ぎを描いており、常識を吹き飛ばす問題作。



監督:ヴェルナー・ヘルツォーク
出演:ヘルムート・ドーリング グルト・ギツケル
1968年/16ミリ/モノクロ/96分/西ドイツ/日本語字幕付き

9(木) 14:00 / 12(日) 11:00
17(金) 14:00

コブラ・ヴェルデ 緑の蛇 Cobra Verde

19世紀初頭のブラジル。「コブラ・ヴェルデ」と名乗る山賊のフランシスコ・マヌエルは、放浪の末ある農園で働くことになる。彼はアフリカ行きを命じられるのだが、戦争に巻き込まれる。そして革命を起こしたヘンリー王子を助けたことで総督に任命される。山賊から総督にまで上り詰めた男の半生を、クラウス・キンスキーが迫力満点に演じる。



監督:ヴェルナー・ヘルツォーク
出演:クラウス・キンスキー キング・アンバウ
1987年/16ミリ/カラー/110分/西ドイツ/日本語字幕付き

10(金) 11:00 / 13(月・祝) 14:00
18(土) 11:00

テルレスの青春 Der Junge Torless

ナチス・ドイツ政権下の人里離れた寄宿舎。聡明な少年テルレスはクラスメイトから尊敬されていた。彼は同級生のバジーニがお金を盗んだことを知る。クラスのリーダーであるバイネベルクと仲間バジーニを罰するのだった。「プリキの太鼓」で知られるシュレンドルフ監督の長編デビュー作で、カンヌ国際映画祭国際批評家賞を受賞している。ニュー・ジャーマン・シネマの先駆的作品とされる。



監督:フォルカー・シュレンドルフ
出演:マチュー・カリエール ベルント・ティッシャー
1966年/35ミリ/モノクロ/87分/西ドイツ/日本語字幕付き

10(金) 14:00 / 13(月・祝) 11:00
18(土) 14:00

出稼ぎ野郎 Katzelmacher

ミュンヘンの街角。酒を飲んで遊ぶ、無気力な生活を送っている若者たち。そんな彼らの前にギリシャ系の出稼ぎ労働者がやって来る。ドイツ語も満足に話せない彼を若者たちはターゲットにしてからかう。ファスビンダー監督の第二作にして出世作。監督自身が出稼ぎ労働者を演じ、都会に暮らす若者たちの不安と焦燥を描いた作品。



監督:ランナー・ヴェルナー・ファスビンダー
出演:ランナー・ヴェルナー・ファスビンダー ハンナ・シグラ
1969年/16ミリ/モノクロ/89分/西ドイツ/日本語字幕付き

11(土) 11:00 / 16(木) 14:00
19(日) 14:00

緋文字 Der Scharlachrote Buchstabe

17世紀後半のアメリカ。大西洋岸の清教徒(ピューリタン)の村。村で姦通をした女性ヘスタの裁判が行われる。その日チリングワースという医者が村にやって来る。彼はかつてヨーロッパでヘスタの夫であり、誰が不義の相手かを見抜くのだった。ナサニエル・ホーソーンの小説の映画化。新大陸に渡って来たピューリタンたちの宗教的戒律の厳しさの中で、不義の子を産んでも卑屈さを見せずに新しい人生を生きようとするヘスタの物語。



監督:ヴィム・ヴェンダース
出演:ゼンタ・ベルガー ハンス・クリスティアン・プレヒ
1973年/16ミリ/カラー/89分/西ドイツ/日本語字幕付き



12/28 土	年末年始の休館日		
4 土			
5 日	休映日		
6 月	休館日		
7 火	休映日		
8 水		14:00 都会のアリス	
9 木	11:00 小人の饗宴	14:00 コブラ・ヴェルデ 緑の蛇	
10 金	11:00 テルレスの青春	14:00 出稼ぎ野郎	
11 土	11:00 緋文字	14:00 都会のアリス	
12 日	11:00 コブラ・ヴェルデ 緑の蛇	14:00 小人の饗宴	
13 月 祝	11:00 出稼ぎ野郎	14:00 テルレスの青春	
14 火	休館日		
15 水	休映日		
16 木		14:00 緋文字	
17 金	11:00 小人の饗宴	14:00 コブラ・ヴェルデ 緑の蛇	
18 土	11:00 テルレスの青春	14:00 出稼ぎ野郎	
19 日	11:00 都会のアリス	14:00 緋文字	
20 月	休館日		
21 火	休映日		
22 水	11:00 石巻市立湊小学校避難所	14:00 蜷気楼劇場	
23 木	11:00 地下の民	14:00 鳥の歌	
24 金	11:00 ターチ・トリップ	14:00 JUNK FOOD/ジャンクフード	
25 土	11:00 五月 夢の国	14:00 ヘヴンズ ストーリー	
26 日	11:00 W/O	13:00 菊とギロチン	16:15 対談
27 月	休館日		
28 火 ▶ 30 木	休映日		
31 金	休館日		

ドイツ映画特集

スタンス・カンパニーの軌跡

スタンス・カンパニーってどんな会社？

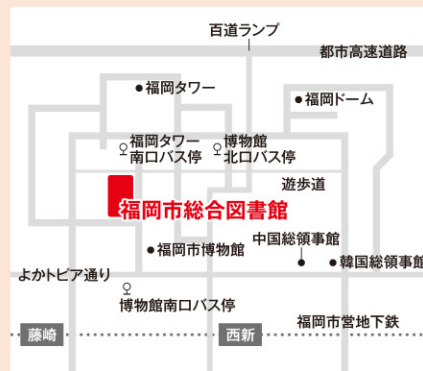
スタンス・カンパニーは1986年、東京湯島に設立された映写技師派遣や出張映写、字幕制作などを手掛ける会社です。現在もそうした裏方的な技術の仕事を行っています。映画の配給や製作を手掛けるようになったのは1990年から。海外の作品を中心に配給していましたが、あまり知名度の高くない若い映画監督や、大手配給会社では取りあげない異色な作品を数多く紹介してきました。製作の方でも国内外を問わず個性の強い作家と組んで、いわゆる「とんがった作品」を手掛けています。90年代当時には強い偏見にさらされていたLGBT(レズビアン、ゲイ、バイセクシャル、トランスジェンダー)や先住民などの少数者、また、世間の「規範」からはみ出した人々に焦点をあてているのは、特色のひとつでしょう。スタンス・カンパニーが製作・配給したユニークな作品群は、決してメジャーなものではありませんが、それゆえに貴重なコレクションを形成しています。また昨今では瀬々敬久監督の作品『ヘヴンズ ストーリー』『菊とギロチン』が国内外で非常に高く評価されました。それらを含む、スタンス・カンパニーが製作／配給した映画の多くが、福岡市総合図書館に寄贈されています。福岡市総合図書館には、映画の保存に取り組む「フィルム・アーカイヴ」の機能があります。フィルム・アーカイヴが図書館に併設されるという例は非常に少なく、多くは美術館や博物館に併設されています。しかしながら、映画は美術品や重要文化財、国宝などの隣に置かれるべきだとも言い切れません。むしろ文学の隣、書籍とともにある方が似合っているように思えます。フィルムに映像がプリントされたものが映画だとすれば、書籍は紙に文字がプリントされたもの。映画と書籍は同じ時期に生まれた複製芸術とも言えるのです。スタンス・カンパニーからの寄贈作品の多くも、優れて文学的であり、図書館にふさわしいものと考えています。

福岡市総合図書館 映像ホール・シネラ

〒814-0001 福岡市早良区百道浜3丁目7番1号
福岡市総合図書館(代表):tel.092-852-0600 fax.092-852-0609

福岡市総合図書館 映像ホール・シネラ ホームページ

うえぶシネラ <http://www.cinela.com>



交通アクセス

当館の駐車場スペースに限りがありますので、できるだけ公共交通機関をご利用ください。

【市営地下鉄】

西新駅または藤崎駅下車徒歩15分

【西鉄バス】

●博多駅、天神、西新から福岡タワー南口下車徒歩5分または博物館南口下車徒歩5分

●藤崎から福岡タワー南口下車徒歩5分
◎所要時間は交通事情により異なります。バス運行時間、目的地までの所要時間の目安、またお近くのバス停からのご利用については西鉄お客様センター [tel.0570-00-1010] に直接お問い合わせください。